

下松「男山八幡神社」のこと



▲男山八幡神社入り口に立つ道標

奥川・下松集落の「男山八幡神社」は、集落の南、新郷・滝坂集落へ通じる古道を2kmほど進んだ「男山」北面に鎮座しています。源義家公の元服の地という山城国男山（現京都府八幡市）より勧請したと伝えています。鳥居や鳥居杉といわれる古木、源義家公馬上出陣の木像を祀る社殿があったといいますが、明治5年(1872)の山火事によりすべて焼失してしまいました。勧請の年代については、①奥州清原氏征討（後三年合戦）の源義家公が東征の際（1085～1086）②「村より二十余丁（約2km）の深山幽谷の地なれば参詣する人もなく自然廃跡となり、源義家公が奥州清原氏征討の際、真ヶ沢集落に遷す」と伝わることから、源義家公が東征する以前などがあり、正確に分かっていません。「下松」は古くは「下牧」と称され、馬の放牧地があったといい、武将とつながりのある地でもあったのではないのでしょうか。

現在では、古い参道である坂道200m余とその両側の古木杉、それを登りつめた場所に「駒繋ぎの松」があったという40㎡ほどの広場、そして2基の石祠が存在するのみとなっています。この石祠も昭和30年代(1955～1964)に地すべりのため現在地へ移しています。石祠の1つには「源義家公馬上出陣の像」が彫られています。

この男山八幡神社は集落から離れた地に鎮座するとはいえ、戦時中においては戦勝祈願をする他村からの参詣者が数多くみられたといい、現在でも下松集落では春と秋の縁日には祭事を継続して行っています。

なお、源義家公は「八幡太郎」と称され、陸奥守*などを歴任し、現在、町の数ヶ所に義家公に関わる伝説が残されています。

*陸奥守（現在の福島・宮城・岩手・青森の4県と秋田の一部）の長官



▲八幡神社にある石祠2基



▲源義家公の姿が彫られた石祠

今月の表紙

今月は、12月1日に行われた町除雪事業出動式から。奥川チームの皆さんにご協力いただきました。雪がたくさん降ると、夜中に出勤し、朝、私たちが活動し始める前にきれいに除雪を終えてくださっています。今年の冬も除雪作業に従事される皆さんにはお世話になります。

編集後記

2月号を編集している1月中旬頃、本格的に雪が降り始めました。今年の冬は雪が少ないなと思っていたところだったので、しっかりと吹雪いている外の景色を見て会津の冬の厳しさを感じています。雪が降ると道路の凍結や雪かきを想像して憂うつな気持ちになりがちですが、全く降らないのもなんだかさみしい気がしてしまうので降り始めた今は、会津の雪を楽しもうと思います。（伊藤）